

第8回  
消費者保護のための啓発用デジタル教材  
開発に向けた有識者会議  
議事録

消費者庁新未来創造戦略本部

## 第8回 消費者保護のための啓発用デジタル教材開発に向けた有識者会議

1. 日 時：令和4年3月11日（金） 10:00～12:00
2. 場 所：消費者庁新未来創造戦略本部 会議室 （ウェブ会議：オンライン参加可）
3. 議 題
  - ・ デジタル教材の報告について
  - ・ 分科会からの報告
  - ・ 報告書（案）について
  - ・ その他
4. 資 料
  - ・ 資料1 消費者保護のための啓発用デジタル教材を活用した調査実証事業  
実証報告
  - ・ 資料2 実証・調査事業報告書（案）

## 5. 出席者

### (委員)

坂本委員（座長）、阿部委員、稲倉委員、齋藤委員、坂倉委員、  
坪田委員、西尾委員、西村委員、阪東委員、山本委員

### (オブザーバー)

徳島県 消費者政策課

徳島県 教育委員会 学校教育課

徳島県立総合教育センター GIGA スクール推進課

文部科学省 総合教育政策局 男女共同参画共生社会学習・安全課

消費者庁 消費者教育推進課

### (事務局)

消費者庁新未来創造戦略本部（消費者政策課）

NTT ラーニングシステムズ



発言者	内容
坂本座長	<ul style="list-style-type: none"> <li>承知した。アンケート結果について、1時限目を例示的に示し、それ以降の現地調査レポートやヒアリング、座談会は、全体についてということか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>そのとおりである。</li> </ul>
坂本座長	<ul style="list-style-type: none"> <li>承知した。それでは資料1について、委員の皆様からご質問やご意見などはあるか。</li> <li>阪東委員、お願いします。</li> </ul>
阪東委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>高校生向けアンケートについて、丁寧にまとめていただき、内容としても実態を反映されているものだと理解した。これを踏まえて、後程報告書について議論する際に意見や感想を述べさせていただきたい。</li> </ul>
坂本座長	<ul style="list-style-type: none"> <li>続いて坪田委員、お願いします。</li> </ul>
坪田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料1をより詳しくしたものが資料2の報告書になるため、どちらでご意見を述べたほうがよいか、お伺いしたい。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>本日の議論では報告書に対してより重きを置いており、時間を取らせていただく予定である。前回の有識者会議では、まだアンケートの最中であったが、今回は実証の結果をまとめた内容になっている。</li> </ul>
坪田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>報告書と内容が重なる部分となるため、報告書の議論の際に申し上げたいと思うが、1時限目の授業後アンケートについて、クロス集計をしているマトリクスがある。ボリュームが少なく感じたと回答した生徒もいれば、多く感じた生徒もいたことを理解できるが、資料1の円グラフのみでは、なぜこのような結果になるのか疑問に感じたため、説明を記載していただきたい。</li> </ul>
坂本座長	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料は公開されるため、その必要がある。</li> <li>資料2の報告書の説明に移る。資料1について、何かご意見があれば、資料2と合わせていただきたい。</li> </ul>
3. 報告書(案)について	
坂本座長	<p>では、資料2の「実証・調査事業報告書(案)」について事務局より説明をお願いします。</p>
事務局	<p>■資料2「実証・調査事業報告書(案)」について事務局より説明。</p>
坂本座長	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料2の内容について、ご意見やご質問をいただきたい。</li> </ul>

発言者	内容
坪田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今後の教材の活用方法や、どのように広めていくか、ご意見をいただきたい。</li> <li>・ 坪田委員、お願いします。</li> <li>・ 1点目は31ページの授業前アンケートで「経験したことがある購入方法」の結果について、「ネット通販や有料ダウンロードは半数以上の方が経験したことがある」と回答しており、「ネットでの通信販売よりも、手軽に実施できるゲームやアプリの有料ダウンロードが多い。」と理由が記載されているが、高校生にとっては「物を購入するのか、ゲームのサービスを取るのか」という問題でもあるため、「決済手段として手軽にできるか、できないか」だけではないと感じた。</li> <li>・ 2点目は全体について、円グラフでは境目に白線が入っているが、棒グラフには境目が入っていない。ペーパーレス化は承知しているが、もし紙に白黒で印刷した場合でも見やすいように考慮していただきたい。</li> </ul>
坂本座長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 31ページの「手軽に実施できる」という文言はなくても良いと思う。</li> <li>・ 高校生の実態として、ゲームやスマートフォンが生活の中心にあるということが多いのではないかとと思う。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 徳島県内2校のアンケート結果となるが、全国的な実態としては、どのようなものなのか、参考までにご意見をいただきたい。</li> </ul>
坪田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実際の相談では、中学生や高校生の定期購入に関するトラブルが非常に多くなっている。定額で購入できるため、つい購入してしまうことが原因であり、それほど高額な買い物をするような状況ではない。また、インターネットで手に入るゲームやスタンプが多くなっている。これらについては、簡単に購入できるからというよりは、自分の興味対象のものがすぐに手に入る状況であるため、必然的に多くなっているのではかと思う。そのため、文言を修正していただければと思う。</li> </ul>
坂本座長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ トラブルとしては、ダウンロードに関してが最も多く、次にインターネット通販となり、全国的に割合は同じかと思う。</li> </ul>
阿部委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高校生がインターネット上で受けるサービスについて、田舎と都会でもそこまで大きな差がないのではないかとと思う。</li> </ul>
坂本座長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 阪東委員、お願いします。</li> </ul>

発言者	内容
阪東委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 表1段目が中央揃えになっているほうが見栄えが良いと思うため修正していただきたい。</li> <li>・ 成年向けでのグラフの解像度が低いものになっているため、文字が潰れない程度に解像度を上げていただきたい。</li> <li>・ 5.7.1.7 のような4つ繋がっている部分と4つ目が（1）となっている部分がある。（1）にするのであれば揃えていただくほうが良い。できるだけ5段目は設定しないよう、例えば生徒の授業前、授業後ではなく授業前で生徒について書くなど、節の分け方を工夫していただきたい。</li> <li>・ 10 ページの評価基準について、「評価規準」でないのか。もしこれを回避するのであれば、「評価の観点」などに変更したほうが良いと思うため、ご検討いただきたい。</li> <li>・ 22 ページの遠隔授業について、文科省で出している遠隔教育システム活用ガイドブックによれば、今回の遠隔教育は「教師支援型の遠隔教育」となるため、細かく状況を記載していただいたほうが良いと思う。</li> <li>・ 日常体験と関係性について、そもそも体験したことがあることを想定として、若年者層を経験があると思われる方に入れているが、経験が少ないと理解が低いこともあると思うため、この議論は不要かと感じた。</li> <li>・ 35 ページに1つだけ、ある観点に従ってマトリクス表が出てきているが、通常、マトリクス表で処理するのであれば、同じような視点で出すのではないかと思う。特定の観点でマトリクス表を使用するのであれば、統一した見解になるように視点を設定していただいた方が良い。</li> <li>・ 77 ページのクイズについて、動画内のクイズのことを記載しているのか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ e ラーニングの動画は高校生向けと共通であるが、動画の中に出てくるクイズについては省いており、ここに記載されているクイズというのはe ラーニング内の2問のクイズを指している。</li> </ul>
阪東委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 報告書でクイズの節があるが、そちらは動画にあるクイズについて説明していると思うため、同じクイズの語句でも違う内容を指していると思う。クイズの項に加筆していただくか、クイズという表現を「理解度チェック」のような異なるものに変更していただいた方が良い。</li> </ul>
坂本座長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 用語の使い方について配慮し、書き分けるようにしていく。</li> </ul>

発言者	内容
坂倉委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 坂倉委員、お願いします。</li> <li>・ 1点目は34ページから55ページ辺りまでの授業後アンケートについて、1時限目から5時限目までアンケート結果を報告いただいているが、「理解できたか」という質問について、2時限目以降は8割以上が「理解できた」あるいは「だいたい理解できた」となっているが、1時限目についてだけ6割と低くなっている。これは阿南光高校で回線不良があったため、1時限目は理解度が低かったという解釈でよろしいか。もしそうであれば、最終報告書の理解度の評価に、その旨を記載したほうが誤解を招かないのではないかと思う。</li> <li>・ 2点目に、事前アンケートと事後アンケートの両方を実施しているが、事前アンケートと事後アンケートを比較し、何か明らかになったものや、導けるものがあったのであれば教えていただきたい。</li> <li>・ 3点目に、91ページの「今後の課題」について、現在の表記では「課題を一覧にして」とあるが、可能であれば、ここは「課題と提言」という形にいただきたい。分科会でもご意見として出ているが、内容を絶えずアップデートしていくことが必要であることや、今後消費者庁のホームページにアップしてもお問い合わせ窓口が必要であることなど、今後に向けた提言も加えて記載していただきたい。</li> </ul>
坂本座長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 阿南光高校で1時限目の遠隔授業を担当させてもらった。回線不良のトラブルもあったが、遠隔授業ということもあり、生徒の状況を確認できず、理解度を確認しないまま授業を進めてしまったことも要因ではないかと思う。</li> <li>・ 2点目にいただいたご意見について、事務局、いかがか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事前アンケートと事後アンケートを対で取得していないため、事前アンケートがサンプル数として少なくなっている。また本来は個々ですべての個人情報を紐づけてナンバリングしていくと、より詳細なクロス集計が作成できるが、今回は紐づけを行っていない。</li> </ul>
坂本座長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 承知した。事前の理解度によって教材の効果がどのように異なるのか等、今後の課題としてフォローしていくことが大切かと思う。</li> <li>・ 今回のデータでは、サンプルサイズが不十分であるため、無理にクロス集計を行い、結果を記載するのは相応しくないと思う。</li> <li>・ 提言について、委員の皆様からご意見をいただきたい。</li> <li>・ 続いて齋藤委員、お願いします。</li> </ul>



発言者	内容
齋藤委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1点目は75ページの用語について、若年者層や中高年者層という分け方に対して、企業様も悩んでおられたようなコメントの記載があるが、今回の報告書の中でも若年者層や高校生、成人、中高年など、似たようなワードがあるため、定義的な記載がどこかにあると、理解できるのではないかと思う。また教材など、アンケートの中でもそのような表現で統一をすると判断しやすくなるのではないか。</li> <li>・ 2点目は25ページで、もともと実証授業で生徒が利用しているタブレット端末の表記にWindowsと表記されているが、例えば教師の方が報告書を読んだ際に、「普段から慣れて利用されているのか」等の前提があると、留意する点への判断材料にもなるのかと思う。可能であれば記載があると良い。</li> <li>・ 3点目は30ページの1. c)に記載がある「ヤフーオークション」について、フリマアプリではないので、例示を削除するか、或いは、フリマアプリ等、と記載いただくのが良い。</li> <li>・ 成年向けの教材について、年代でレベルを分けるのではなく、前提知識や、その時々が必要としている情報を基に、ニーズに合わせた提案があると理解が進むと思うため、そのような配慮があると良い。</li> </ul>
坂本座長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事務局の方で対応していただきたい。</li> <li>・ 続いて稲倉委員、いかがか。</li> </ul>
稲倉委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1点目は4月以降、教材がどの程度利用されているのか、情報を収集していく予定はあるのか。</li> <li>・ 2点目は報告書の提出後、ニュースリリースを出すと思うが、どのようなことを記載するのか。例えば、電子決済の実体験がない方であっても、デジタル教材を使用することで疑似体験ができ、知識の向上などの効果があった、というような結果の記載があるとインパクトがあるのではないかと思う。</li> <li>・ 3点目は報告書の量が多いため、冒頭にサマリー（要約）があると多くの方に読んでいただけるのではないかと思う。</li> </ul>
坂本座長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今後の課題について、教材の利用状況を把握していくことやニュースリリースとして疑似体験ができるということを強調していくこと、報告書の冒頭にサマリーがあると良いのではないかとご意見をいただいた。今後対応をしていきたい。</li> <li>・ 続いて坪田委員、お願いする。</li> </ul>

発言者	内容
坪田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>• デジタル教材の使用方法について、教室での使用や遠隔授業での使用、Web サイトを利用する方法など、様々あるが、それぞれ準備が必要であり、どのような準備を行ったのか、その準備によって良かった点や足りなかった点などが、デジタル教材を使用する際のハードルとなっているため、どこかで共有していただきたいと思う。</li> <li>• 今後に向けて教材を使用する際、例えば電子マネーの使用経験が「あるか」「ないか」について、経験がある生徒の場合は、この教材を使用してどのような効果があったのかということに記載し、また、使用経験がない生徒は教材で疑似体験を行うことによって、どのようなことなのか体験できるため、ポイントとして「教師用指導手引書」に記載していただければと思う。</li> <li>• 「面白かった」について、どのように考えたら良いのか難しいと思うが、高校生の場合は、「面白かった」と感じてもらうことが重要であるため、「どこが面白かったのか」今後深めていただくと、ニーズに合った教材開発ができるのではないのか。</li> </ul>
坂本座長	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 私も同意見である。</li> <li>• 生徒の状況による授業の進め方の違いや、「面白かった」について、どこが面白く感じたのかなど、さらに掘り下げていくことが今後の課題である。</li> <li>• 阪東委員、ご意見はあるか。</li> </ul>
阪東委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 「遠隔授業の回線状況」、「体験の状況」など、「何を取り上げて、何を取り上げないのか」については取舍選択する必要があると考える。今回「遠隔授業の回線が、どう影響があったか」によって「十分に授業を受けられなかったため、また受けない」という意見はあると思う。回線状況による大きな違いが認められないのであれば、報告書では事実として回線不良はあったことを示した上で、合算して報告するなど、「教材の効果」という点だけをもう少し焦点化しておく方が良い。なお、遠隔授業のために、先生方が準備されたことなどは、「教師用指導手引書」に詳細に記載し、報告書には細かく記載しなくても良いと思う。報告書の内容については異論は無いが、最後の方向性として、この点を考慮して取りまとめをしていただきたい。</li> </ul>
坂本座長	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 基本的に報告書の内容は、「制作したコンテンツが良いものであったか、どうか」といったことを紹介することが趣旨である。「良くなかった点」については、今後、さらに改善もしていることが伝われば良いのではないか。その改善方法や、気が付いた点をどのように記載していくかは、ご指摘のとおり、趣旨がぶれないよう注意してまとめることが大事である。</li> <li>• 阿部委員、ご意見はあるか。</li> </ul>

発言者	内容
阿部委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>齋藤委員からお話があったが、私自身は徳島に住んでいるため城東高校や阿南光高校について理解しているが、この報告書を全国の人が見たとき、背景がわからないと思う。生徒の様子として、「普段からタブレット、スマートフォンを使用している」というような事前の情報が欲しいと感じた。アンケートの「どちらとも言えない」という点に焦点を当て、そう答えた生徒たちに対して、「どこがどうであったか」について分析すれば、今後の課題として、コンテンツ自体をブラッシュアップしていく手段となる。また、教材をどう活用していくかについても検討していかなければいけないと感じる。相談の現場にいる者としてこのような教材があれば、便利であり、使いたいと思うが、「ではそれをどう周知していけばよいか」という点に関して、検討していく必要がある。</li> </ul>
坂本座長	<ul style="list-style-type: none"> <li>報告書を読むに当たっての予備知識として、タブレットの活用状況等を上手くまとめられたら良い。「どちらとも言えない」という回答の分析、教材の効果については、改めて行わなければならないと考えている。今後の教材活用について、「このような活用方法がある」といったご意見をいただきたい。</li> <li>西村委員、ご意見はあるか。</li> </ul>
西村委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業で教材をもう少し試したいと考えていたが、時間の確保が難しく、一部しか使用できない結果となり、残念であった。今後の活用については、他の家庭科教員、また公民科の教員も消費生活について授業で扱うため、各教科の主任会などで紹介していきたい。</li> </ul>
坂本座長	<ul style="list-style-type: none"> <li>他の学校の先生方にも広く知っていただきたい教材である。</li> <li>山本委員、ご意見はあるか。</li> </ul>
山本委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育委員会のホームページを利用して、家庭科のアプリなどの参考資料を探ることがある。本教材についても、教育委員会のホームページにリンクを貼っていただければ、周知しやすく教育現場でも気軽に使いやすいのではないかと。</li> </ul>
坂本座長	<ul style="list-style-type: none"> <li>全国の教育委員会関係者の方々にも是非ご協力いただければと思う。</li> <li>西尾委員、ご意見はあるか。</li> </ul>
西尾委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>この報告書の目的に記載があるとおり、背景として、デジタル化社会が急激に進んでいる状況の中で、さらに新型コロナウイルス感染症の感染拡大予防のため「新しい生活様式」としてのデジタルリテラシーが十分でない消費者に対して提供する教材の位置付けが、非常に重要なポイントであると考えている。学校現場や教育現場にお</li> </ul>

発言者	内容
坂本座長	<p>けるデジタル化の進み度合いに少し差異がある。「進んでいる」ところもあれば、「これから」のところもある。報告書の中で紹介されている内容においても、同じ学校でも半年経てば全く違う結果が出てくる可能性すらあるスピード感があると思う。その上で、今回の教材は消費者に対してトラブルに巻き込まない、または必要な知識を身に付けていくという点では、貴重な教材であり、様々なアプローチができるものが揃っている。目的として、「より多くの方に広く使って、知っていただく」という事を報告書の内容として求める際は、目的や項番7の「事業まとめ」、「今後の課題」などに、地域性だけでなく、それぞれの学校によってかなりバイアスで幅があるということも理解しつつ、フォロー、またはサポートするような記載や、「まずはこう使ってみる」、「まずは少し興味を持っていただく」といった要素が、課題として記載されていると良い。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 私も教育事業を行っているが、2020年と2021年の1年間で、オンライン出前授業の希望者が約4倍も増加した。本教材に関しても、半年、1年のうちに、指導者、一般の方も含め、環境が少し変わるだけで、取り組み体制が全く変わる要素が隠れていると思う。我々もそのことについて、意識しながら紹介を進めていくことを考えている。こういった教材が「欲しいという時に、手元にある」というのが重要であると思う。学校現場や環境により、本教材を使いたいタイミングは少しずつ違うと思うが、重要なのは「そのタイミングの時にこの教材を知っている環境」、もしくは「この教材が照会できる環境があるか」という点である。一斉に足並みを揃えることは難しいが、ご活用いただける環境に応じて、「使いたい時に、手に取れる」ということを、連携しながら進めていきたいと考えている。</li> <li>・ 「大きく変化している中で」という点がポイントであるということは、報告書の中でも踏まえるようにしたいと思う。</li> <li>・ 今後の課題について、新未来創造戦略本部より補足説明をお願いする。</li> </ul>
新未来創造戦略本部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本事業で制作した、コンテンツの掲載方法についてご報告させていただく。本日の会議を踏まえ、報告書等各種教材を整理し、年度内に公表する方向で調整を進めさせていただく。公表は掲載可能な資料を消費者庁ウェブサイトに掲載する。なお、eラーニングを含むアプリケーションの一部のコンテンツは、可能な限り速やかな時期に追って掲載をさせていただくことを検討している。</li> </ul>
坂本座長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ アプリについては、同時に公開はできない状況だが、それ以外の教材についてはウェブサイト上で公開していただくということである。</li> </ul>
4. その他	
坂本座長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本日の議題は全て終了である。</li> </ul>

発言者	内容
阿部委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 最後に委員の皆様から一言ずつ、本事業全体を通しての感想などがあればいただきたい。</li> <li>・ 阿部委員、お願いします。</li> <li>・ 2年間に渡り、携わらせていただき、感謝申し上げます。貴重な経験をさせていただいたと感じている。特に城東高校の実証授業に参加させていただいたことは、子供たちの生の声を聞くことができる貴重な経験であったと感じている。また、本教材を活用して行くために、相談現場での宣伝も行いたいと考えており、消費者トラブルを少しでも防げるように活動していきたい。ありがとうございました。</li> </ul>
坂本座長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 稲倉委員、お願いします。</li> </ul>
稲倉委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今回は高校生と成人が対象であったが、大学でも是非授業に取り入れたいと考えている。また、個人的に勉強になった点として、私は講義でパワーポイントだけを使用しているが、アンケート結果を見る限り、動画も取り入れた授業をした方が良いということがわかった。今後は利用できるあらゆるコンテンツを積極的に活用していきたいと思う。ありがとうございました。</li> </ul>
坂本座長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 齋藤委員、お願いします。</li> </ul>
齋藤委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ オンラインでの会議参加が主であったが、そういった状況の中でも、有益な議論ができたと感じている。私も視察授業で城東高校に訪問させていただいたが、そういったケースで学校でのご意見などを聞き、我々としても様々な活動を広めていきたいと考えている。また、(株)メルカリとしても最近、教育教材を作り、ポータルサイトに公開をさせていただいた。そういった意味でも、引き続き連携を取っていきたいと考えている。今回のご縁を基に、プロジェクトなどでまたご一緒できれば良いと感じている。ありがとうございました。</li> </ul>
坂本座長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 消費者教育に関して、教育関係者のみならず民間企業の方も含め、全員で連携し取り組んでいくことが非常に重要である。また、今回教材を制作していく上で感じたが、高校生に対しては、「学習指導要領」の縛りもあり、難しい内容を扱わざるを得ないということもあった。高校生の実態にあった教材制作について、民間企業と協力して行えば良いと思う。</li> <li>・ 坂倉委員、お願いします。</li> </ul>
坂倉委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 私自身、高校生向けの教育について、関わったことが少なかったため、非常に良い勉強の機会となった。せっかく良い教材ができたため、是非これが全国の高校に使っていただけるように広まることを</li> </ul>

発言者	内容
坂本座長	<p>期待している。私共は、事業者団体で全国に会員企業が 600 社程あるため、今回の教材が公表された際は、各企業に紹介し、何らかの形で本教材を活用していただくよう、働きかけをしていきたいと考えている。2年間、皆様とは1度もリアルでお会いできず残念であったが、またお会いできる機会があることを楽しみにしている。ありがとうございました。</p>
坂本座長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 分科会座長を務めていただき、感謝申し上げます。</li> <li>・ 坪田委員、願います。</li> </ul>
坪田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 私どもは相談員の団体であるため、「消費生活相談」と「消費者教育」の2つは「車の両輪」と思いながら常に取り組みしており、本当に有益な勉強をさせていただいた。特に教材ができる前に実証することによって、受け手の生徒と、教える側の先生のご意見を伺うことは、後に活用して行くための有意義な情報になって良いと思う。今後、更なる本教材の活用が進むことを願う。</li> </ul> <p>また、「教師用指導手引書」について、先ほど「報告書とどのように役割分担をしてボリュームを抑えるか」というご意見もあったが、たとえ良い教材があっても、「どんな準備が必要であるか」、「どのくらいの負担で行えるのか」、「生徒の反応がどうであるか」ということが未知数であり、結局どうしても「今までの教材で何とかやっていけるのではないか」と思いがちなところがある。是非「教師用指導手引書」を充実させ、多くの方が目にするにより、本教材の活用が進むのではないかと感じている。家庭科、社会科など、教科で教えるべきことを教える一方で、卒業前など節目の際には別の観点から生徒に教えることにより、「縦糸」「横糸」という隙間のない形で行っていかねば、実生活にまで結びつけることは難しいと感じる。ありがとうございました。</p>
坂本座長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 西尾委員、願います。</li> </ul>
西尾委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 私は途中からの参加であったが、本事業に関われたことは非常に嬉しく思っている。今回、出来上がった教材は、高校生向け、成年向けのものとあるが、少なくとも我々が高校生時代にはなかった内容を学ばなければいけないもの、逆に言えば「指導される方が元々学んでいないことを、理解し指導していかねばならない」という課題があると思う。我々も民間企業として広めていくために、教材の内容を1つの新しい学びとして、しっかり理解した上で、広げていけるように貢献、ご協力できればと考えている。今後、まだまだ必要となってくる新しい分野であると思うが、新しい分野であるからこそ、広める難しさと共に重要性も高いと考えている。引き続き関わっていききたい。ありがとうございました。</li> </ul>
坂本座長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 是非、今後とも啓発活動等にお力を貸していただきたい。</li> <li>・ 西村委員、願います。</li> </ul>

発言者	内容
西村委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 私自身は当初、タブレットも配られ、「授業でこれが必要なのか」というレベルでスタートしたが、途中から「デジタル社会に対応する」という意味もあることに気が付き、参加させていただいていた。普段、接することがない様々な企業の方、または大学の先生方などのお話を聞くことができ、非常に刺激的な2年間であった。家庭科の時間として私が生徒に接することができるのは、週2時間だけという短い時間であるが、その中で今回制作いただいた教材を上手く使えるよう構成を考え、生徒の実りになるよう繋げていくことが、教員の仕事と考えている。その構成がいつ理想的な状態になるかは分からないが、今後も継続して活用をさせていただきたい。ありがとうございました。</li> </ul>
坂本座長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 是非今後もご活用いただき、アドバイスもいただければと思う。</li> <li>・ 阪東委員、お願いします。</li> </ul>
阪東委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 様々な立場の方と一緒に参加をする機会をいただき、大変勉強になり、ありがたいと感じている。この1年間を通し、発言の中で自分事として捉えるというのは、特に意識として残っている。「自分事として捉えるために何が必要か」というのは引き続き自分自身の研究にも活かしていきたいと思う。</li> </ul> <p>また、坂本座長が意識的にデジタルを使い、様々なところで「教師支援型の遠隔教育」に、実際にご自身が携われるといったことを間近で拝見する機会があり、これからの指導者として「このデジタルをどう生かしていくか」ということについては、もっと考えていかなければいけないと改めて感じた。今後、今回制作したデジタルコンテンツを教育にどう活かすかという点に加え、「先生方にこういった有益なコンテンツがあり、ご自身の授業に活かせる」ということも引き続き啓発していかなければならない、と考えている。ありがとうございました。</p>
坂本座長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 阪東委員には遠隔授業を実施するに当たり、様々なご支援、ご指導をいただき、私自身も勉強になった。ありがとうございました。</li> <li>・ 山本委員、お願いします。</li> </ul>
山本委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 私は途中参加であったが、たくさんの質問、意見を出させていただいた。普段、身近な教員の方としか話す機会がなかったため、様々な立場の方のお話を聞くことができ、大変良い機会をいただけたと思っている。授業をするに当たっても、デジタルコンテンツに触れる機会をいただき、大変勉強になった。ありがとうございました。</li> </ul>
坂本座長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 最後に私からも感想を申し上げる。皆様がおっしゃってくださったように、色々な立場の方と協力し、1つの教材を作れたことは非常に良い機会であったと感じている。また、制作チームなどに対しても大変無理を申し上げた。事務局の方についても、関係者が多く調</li> </ul>

発言者	内容
	<p>整も困難であったと思うが、良く頑張っていたいただいたと思う。大変忙しい1年であったが、皆様のご協力もあり、膨大なコンテンツをまとめていくことができ、良かったと感じている。改めて ICT の活用も皆様に広めていければと考えているが、何よりも大事なものは本教材の今後の活用についてであるため、広めていく活動や、メンテナンスを続けていく体制を取っていただくなど、消費者庁全体で、活用や普及に取り組んでいただきたい。私も関係者の一員として、しっかり取り組んでいければと考えている。ありがとうございました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 進行を事務局にお返しする。</li> </ul>
5. 閉会	
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 以上をもち、本日の会議は終了とさせていただきます。本会議が最終となるが、今年度中に公表を行う予定である。事務局でも準備を進め、委員の皆様方には別途公表日時をご連絡させていただく。本日はご多用のところ、また事業全般に関しまして、委員の皆様、多くのご指導、ご支援、ご協力を賜り感謝申し上げます。また、担当した制作メンバー、及び消費者教育支援センター様も裏方ではあるが、教材制作に監修としてご支援いただいた。この場を借りて御礼を申し上げます。事務局として至らぬ点が多々あったが、各実証高校では「勉強になりました」や「初めて聞きました」など、子供たちの目が輝いていたのが脳裏に焼き付いている。実証にご協力いただいた皆様にも御礼を申し上げます。最後の締め言葉として事務局からお礼に代えさせていただくが、委員の皆様方、関係者の皆様方、誠にありがとうございました。</li> </ul> <p>以上で、「第8回 消費者保護のための啓発用デジタル教材開発に向けた有識者会議」を閉会する。</p>

以上